

華山が見た田原(二)

● 姫島

姫島のスケッチには、島に生える植物を薄緑に着色し、松の樹影が描いてあり、当時は随分立派な松が生えていた様子が分かります。また、姫島の地勢についてもふれており、南は砂浜、北は険しい岩場としています。この基盤岩は三波川変成岩類のカンラン岩や蛇紋岩で、笠山と同じように半島内でも独特の地質です。華山もこの地質に興味を示し、「鉄分の多い赤い土」「黒から茶赤緑の色の石」「赤い石は磁石のようだ」と記しています。また岩場については「寝床の如く、碁盤の如く」「鬼の宴会後の机をひっくり返したよう」と形容しています。

● 笠山から見た大洲崎

スケッチには、今はなくなった大洲崎を中心に対岸などを描いています。写真では稚松が生えているのが分かります。大洲崎は砂利採取の後消滅し、埋め立てられました。その場所は現在のトヨタ自動車田原工場のあたりになります。

笠山の山頂には松が描かれていますが、しかし現在の笠山は稚松ばかり



● 笠山から見た大洲崎 (大正時代)

で、この十年で松の太木は枯れ、笹が一面を覆うようになりました。姫島や笠山では、土壌化が少なく栄養がない地質のため、大きな木が育ちにくく、一定のサイクルで植生に変化が訪れているようです。

● 仁崎  
これまでの景観の記述は、華山の博学を示すものですが、他にも華山の芸術家としての感性がうかがえる、田原の景観の記述があります。

● 滝頭  
滝頭の岬から見下ろした仁崎村を、前は海、後ろは山の半農半漁の村であることから、「武陵桃源(理想郷)のようだ」と最高の賛辞を与えています。

● 滝頭周辺

華山は藤七原の田畑を通りぬけ、右に衣笠山、左に滝頭の白糸の滝を見ました。当時、滝頭の滝は水量が豊富で、遠くからも見えていたのでしょうか。岬で振り返り見た、水田

の水、山の緑が交互に繰り返す様子を「実に一幅の絵を思わす壮観な景色である」と感想を述べています。



● 仁崎へ抜ける岬から田原市街地を見る

● 表浜の景観  
黄土色の土壌が崖となって露出、そして谷が入り込んだ様子を「金屏風」に見立てています。現在は砂浜が後退したうえ、崖の崩落が心配されている表浜ですが、その深刻な問題を知らなければ、このように感じるのでしょうか。



● 現在の金屏風の海岸

▽ 田原町博物館 ☎ 22局 1720

今月の表紙

COVER STORY

待望の図書館。広く、明るい館内は、とても居心地の良い空間となっています▼でも、田原の図書館はまだ生まればかり。私たちの生活に馴染み、「文化」としてこの町に浸透するまでには、まだまだ永い年月がかかります。そうして、田原オリジナルの図書館に成長していくのでしょうか▼図書館は子どもを大人にする場所かもしれません。それは読書によって知識が深まるばかりでなく、館内で静かにするなど、利用者がお互いを気遣うことによって、公共の場所でのマナーが身に付くからです▼また、本はその内容だけでなく、装丁を含めて一つの芸術作品と言えます。作者の想いや、後に読む人のことを考えて、大事に扱ってあげてください▼「読書は夜道の案内者」と言います。図書館は、まぢ全体を明るく照らしてくれることでしょう。(写真・中庭やテラスでも読書が楽しめます)

【人口と世帯数】

総人口	36,809人	
男性	18,785人	
女性	18,024人	
世帯数	11,490世帯	
出生	23人	死亡 18人
転入	84人	転出 103人
増減	-14人	

(平成14年8月1日現在・増減は7月中)

【行政面積】 82.86 km<sup>2</sup>

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)